



静岡大学附属図書館報 No.175 2023.4

- 目次 ■巻頭言 ■令和4年度のモニター活動について ■図書館業務用電子計算機システムの更新について  
■学長裁量経費による電子ブックの充実について ■教員等著作寄贈図書一覧 ■図書館の動き

## 〈巻頭言〉

### 知識を吸って大きく育て



館長 河合 真吾  
(農学部 教授)

新入生の皆さん、ようこそ静岡大学へ。

ほぼ3年間におよぶ「ウィズコロナ」が終焉しつつあり、時代は「ポストコロナ」に移行してきました。不安定な世界情勢など心配な部分も多いですが、新しい日常を満喫してください。在学生の皆さんも同じです。本学図書館には、多くの蔵書や電子リソースがあります。多くの新しい知識を吸収することで、自ら問いをたてる能力を身につけ、ぜひ大学を楽しんでください。

私は森林の生物や化学について日々学んでおりますが、私の研究と図書館との関連するキーワードの一つに紙があります。紙は、森林から得られる木材—現在では木質バイオマ

スの方がポピュラーですかね—が原料です。木材に水をかけながら物理的にすりおろして作ったパルプや、チップ状にした木材を圧力釜の中でアルカリ試薬と反応させ、紙の成分であるセルロースを化学的に取り出したパルプを、シート状に成形したものが紙です。前者は新聞紙、後者は本やコピー用紙になります。ただ今では、脱炭素社会をめざした古紙の回収・利用が必須で、古紙を混ぜて紙にすることがほとんどです。木質バイオマスである紙を使った本を、大量に長期間にわたって保存している図書館は、二酸化炭素の貯留にかなり貢献していることになります。

脱炭素社会といえば、紙の再生利用以上に、木造建築や高層木造ビルが現在注目されています。戦後大規模に植林された人工林の多くが樹齢50年を超えています。大きくなった木はあまり成長せず、光合成による二酸化炭素の吸収が減少し、呼吸による二酸化炭素の放出との差が無くなってきます。したがって、大きくなった老木を伐採し、そこに成長力の旺盛な若い木を植えて森林の二酸化炭素吸収量を増やすとともに、炭素をたっぷり固定した老木を長期貯留が可能な木造建築などに利用することで、地球上の二酸化炭素の総量をマイナスにするネガティブエミッションを目指しているのです。ただ、成長の早い外来種の導入には、生態系を破壊しないような工夫が必要でしょう。

さて話は変わりますが、私のある研究のきっかけとなった本を紹介しましょう。「身近な生物間の化学的交渉－化学生態学入門－（古前恒・林七雄 著）」という古い本(1985 発刊)ですが、カイコの性フェロモン化合物や、帰化植物セイタカアワダチソウの凄まじい繁殖力をサポートするポリアセチレン化合物など、生物そのものが生物間の生存戦略を生き抜くためにつくった化学物質に関する先駆的な研究が紹介されており、心躍りながら読んだことを覚えています。今では、生物が化学物質を使って他の生物と会話しているように見えることから、ケミカルコミュニケーションともいわれています。マメ科植物がフラボノイド系の化合物を分泌することで根粒菌と共生する例や、草食系のハダニに食害を受けた植物がテルペン系のSOS化合物を放出し、その匂いを感知した肉食系のカブリダニが、あたかもボディーガードのように集まってハダニを退治する例もこれにあたります。後者の肉食系ダニは天敵農薬として農業にも用いられています。私は、ハンノキやヤマモモなど一部の樹木が、放線菌フランキアと根粒共生するために放出するコミュニケーション物質の特定とその共生機構を探っています。フランキアから窒素源の供給を受けるこれら樹木の成長は比較的早く、二酸化炭素の固定にも貢献できると期待しています。

さて、新学期からは図書館の利用制限も徐々に解除しています。会話が可能なエリア（静岡キャンパス：ハーベストルーム、浜松キャンパス：グループワークエリア等）の利用も可能になっています。ぜひ積極的に利用していただき、皆さんとともに新しい図書館を作り上げていただきたいと思います。老木（ばかりではないですが・・・）の我々教員や、知識の蓄積である図書館を上手に使うことで、知識吸収容量の大きな若木であるあなた方が伸々と成長することを期待しています。

（『身近な生物間の化学的交渉－化学生態学入門－（古前恒・林七雄 著）』は静岡本館書庫に所蔵）

## 図書館へ行こう



分館長 大岩 孝彰  
（工学部 教授）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。春から新しい大学生活が始まり、希望を胸に抱いていらっしゃるかと思います。この春からは新型コロナウイルス対策も緩和され、講義や実習だけではなく、サークルなどの課外活動も対面での実施が可能となり、同級生・先輩・後輩学生または教員との積極的なコミュニケーションが期待できます。3年前に突然発生したコロナ感染症は多くの問題を発生させましたが、反面、IT技術の発達により、それまで一般的ではなかったオンライン講義・会議システムやオンデマンド動画などの技術を飛躍的に普及させました。現在では、対面とリモートそれぞれの長所をうまく使い分けて、大学生活をより一層充実させることができるようになりました。

図書館には、従来から多くの紙媒体の蔵書、つまり専門書、単行本、雑誌または新聞などが備えてあり、学生ならだれでも来館して閲覧することができます。また館内には研究成果を発表したり作品を展示できるギャラリー、個人やグループのための学習スペースなど、皆さんがこれらのコンテンツや設備を直接利用できる環境が整えられています。一方、自宅や研究室などの遠隔地から蔵書検索や電子リソースへのアクセスができる環境も存在し、近年は益々充実してきています。在学中には是非、オンラインとオフラインのメリットを

享受してはどうでしょうか？ 本学では新入生の皆さんのために「新入生セミナー」という導入教育を行っています。その中には「図書館利用セミナー」があり、図書館の利用方法や活用方法が学べます。図書館には多くの経験豊かなスタッフが常駐していますので、是非セミナーや来館時に利用方法などを積極的に尋ねてみてください。

以下、私の子供・学生時代を振り返りながら、図書館の有効な利用方法についてアドバイスしたいと思います。私が初めて図書館を訪れたのは、ちょうど小学生3年生のときでした。友人に誘われて市の図書館へ行ったのがきっかけでしたが、教科書や自分の持つ僅かな本以外に、無尽蔵の書籍が突如として現われ、それはとても衝撃的な出来事でした。それからというもの、週に2度は訪れては趣味の本やノンフィクションの歴史書などを借りまくるようになりました。その影響は半世紀以上経過した現在まで続いていて、若い頃に得た興味や知識は人生にかなり影響を与えています。皆さんも学習のためだけでなく、趣味を広げたり新しい興味を引き出すために図書館へ足を運んでみては如何でしょうか？

その後、私も大学生になると人並みに学習や研究、課外活動で忙しくなりましたが、それでも足繁く図書館に通っていました。目的の一つは実験レポートの考察のネタ探しでした。理系学部の実験は昔も今も数名のグループで行っていますので、実験結果は全員同じ内容になりがちです。つまり、レポートの最後に記す考察すなわち解釈や今後の課題提案などのコメントでしか個性を表すことは難しいです。当時はとにかく、関係する色々な専門書を読み漁って、人とは違った考察を述べることに努力していました。もちろん、本そのものに実験の考察は記されていないので、自分で色々考えてオリジナリティを出すトレーニングにもなりました。今ではインターネットで目的の情報に至極容易にたどり着けることも多くなりましたが、所詮は他人の考えた文章でしかありません。図書館ではたまたま偶然に手に取った書籍の中から意外な発想が得られることは少なくありません。

私なりの活用方法を2, 3述べましたが、新入生の皆さんも授業や課外活動の空き時間にふらりと図書館へ寄ってみませんか？ 新しい発想や趣味開拓に役立つと思いますよ。

### 図書館内の会話可能なエリア(R5年4月から再開しました)





## 〈令和4年度のモニター活動について〉

### 静岡本館と浜松分館の学生モニターが交流会を行いました

令和4年度のモニター活動では、両キャンパスのモニター交流会を実施しました。直接交流するのは初めての試みです。静岡キャンパスのモニター（以下、静岡モニター）が大学のバスで浜松キャンパスへ出向き、浜松分館見学の後、浜松キャンパスモニターとのモニター交流会を実施、その後、一緒に浜松医科大学附属図書館へ行き、館内の見学をさせていただきました。

交流会の様子



浜松医科大学附属図書館見学



#### 学生モニターの感想（抜粋）

・（浜松分館、浜松医科大学の）どちらの図書館も、電子ブックのQRコードが棚にあったり、勉強するスペースが充実したりしていて空間づくりや展示の勉強になりました。

（教育学部・2年）

・自分ではなかなか訪れることができない他大学の図書館などを見学することができ、今後モニターとして活動する際にも参考になりそうです。

（理学部・2年）

・（浜松医科大学図書館について）専門書が電子化されれば、省スペース、荷物の軽量化、購入費用の削減などメリットが多いと思います。（中略）電子書籍化は非常に面白いと感じました。静岡本館での合同ミーティングというのもしてみたいと感じました。

（人文社会科学部・1年）

・静岡キャンパスの方々と初めて対面で交流会をすることができて非常に楽しかったです。

がっつり専門分野の本の紹介をしてくださって、どのようなことを大学で勉強されているのかというのがよくわかりました。

（総合科学技術研究科・1年）

・浜医大の図書館へ入るのは初めてのことで、終始ワクワクしていました。ボルダリングがあるのはズルいです…(笑) また、今回の交流会を通して、浜松キャンパスの学生モニター同士の交流も深めることができたと感じています。

（情報学部・2年）

・モニター交流会では、双方で意見を持ち寄りそれについての議論がスムーズにでき、昼食を一緒に食べながら互いのキャンパスについての話もできたため、良い交流だったと思いました。浜松医大の見学会では本の電子書籍化をして閲覧スペースを増やすスマート図書館という考え方が面白いと感じました。時間があれば書庫も見てみたかったです。

（工学部・2年）

#### 令和4年度のその他の活動

##### 静岡本館

「ミーティング」「モニター選書・POP作成」「福袋企画」ほか

##### 浜松分館

「ミーティング」「七夕飾り」「twitter本紹介」「しおり作り企画」「交流会」ほか

## 〈図書館業務用電子計算機システムの更新について〉

賃貸借契約期間の満了に伴い、2022年12月1日に図書館業務用電子計算機システムが更新されました。今回は20年ぶりに業者変更となり、NTTデータ九州製からリコー製のシステムに切り替わりました。

新システムには以下の特長があります。

- ▶ OPAC・myLibraryの機能がより充実しました。例えば、OPAC上でCiNii ResearchやNDLサーチを横断的に検索する、OPACでブックマークした資料をmyLibrary上で保存・管理する、利用者の好みに合わせてOPAC検索結果の数や検索順のデフォルトを変更する、といったことが可能になりました。
- ▶ OPACで電子リソース(電子ジャーナルや電子ブックなど)を検索できるように、従来のシステムでは図書館職員による定期的な取り込み作業を要していましたが、新システムではOAI-PMHによる自動取り込みを実現しました。
- ▶ 業務システムがWebアプリケーション化され、いわゆるSaaS型となりました。これにより、図書館職員がサーバの運用を意識することなく、図書館業務に専念できるシステム構成となりました。



新図書館システム OPAC画面

## 〈学長裁量経費による電子ブックの充実〉

令和4年度学長裁量経費を得て学生向け電子ブックキャンペーンを実施しました。令和3年度から継続2年目です。電子ブックのプラットフォーム KinoDen(紀伊國屋書店)の全文試読サービス・リクエスト機能により、学生リクエスト等の電子ブックを約300冊購入しました。

購入した電子ブックは蔵書検索 OPAC から検索、利用できます。自宅等学外からも静大ID認証で利用できますので、ご活用ください。

[静大で購入の電子ブック]

<https://www.lib.shizuoka.ac.jp/browsing/e-resource/#n3>



令和4年度は、ProQuestとMaruzen ebook Library(丸善雄松堂)も全文試読サービスを実施しました。

## 〈教員等著作寄贈図書一覧〉

この度は著作物をご恵贈いただき誠にありがとうございます。  
図書館では学内出版物及び学内関係者が執筆した図書を収集しています。  
今後も著作を刊行された際は是非ご恵贈くださいますようお願いいたします。  
(寄贈図書一覧は著作者のお名前の五十音順に配列しています。)

凡例

◇寄贈者名(所属)  
・書名[出版者]<役割>  
配架場所【請求記号】

### ◇大野旭(人文社会科学領域)

・邂逅する写真たち:モンゴルの100年前と今[国立民族学博物館]<執筆> 静・開架  
【222.7/SH39】

・蒙古與伊斯蘭中國:一段貼近民族心靈の旅  
程[八旗文化:遠足文化]<著> 静・開架  
【222.15/Y72】

・絵画・写真・ポスターが物語る中国の暴力  
[風響社]<編> 静・開架, 浜・開架  
【312.227/Y72/14】

・羊と長城:草原と大地の「百年」民族誌  
[風響社]<著> 静・開架 【222.6/Y72】

### ◇川瀬憲子(人文社会科学領域)

・集権型システムと自治体財政:「分権改  
革」から「地方創生」へ[自治体研究社]  
<著> 静・開架 【349/KA97】

### ◇白井千晶(人文社会科学領域)

・性暴力サバイバーが出産するとき:子ども  
のころに性的虐待を受けた女性が出産す  
るときにおこることの理解と癒し[ともあ  
<監訳・翻訳> 静・開架 【495.7/KL2】

・アジアにおける出生前検査と障害をめぐ  
る実証的研究:アンケート調査一次報告書  
(全体版)[著者]<研究代表> 静・開架  
【495.5/SH81】

・アジアの出産とテクノロジー:リプロダ  
クシヨンの最前線[勉誠出版]<編著> 静・  
開架 【302.2/SH81】

### ◇鈴木正行(元附属学校教員)

・多文化・多民族化の進展下における職業  
倫理形成に向けた総合的カリキュラム開発  
研究[著者]<研究代表> 静・開架  
【375.3/SU96】

### ◇土田和博(元教員)

・経済法のルネサンス:独占禁止法と事業  
法の再定位[日本評論社]<著> 静・開架  
【335.57/TS26】

### ◇戸田三津夫(工学領域)

・浜松の淡水魚観察図鑑[浜松水辺を愛す  
る会]<校正> 浜・開架 【487.5215/H24】

### ◇富田涼都(農学領域)

・むかしのみずべは[総合地球環境学研究  
所Eco-DRRプロジェクト]<執筆> 静・開架  
【726.6/MU25】

### ◇中川訓範(人文社会科学領域)

・選挙・投票・公共選択の数理[共立出版]  
<執筆> 静・開架 【311.19/O95】

### ◇藤井基貴(教育学領域)

・道徳教育はいかにあるべきか:歴史・  
理論・実践・展望 続[ミネルヴァ書房] <  
執筆> 静・開架 【371.6/D88/2】

・学問の自由の国際比較:歴史・制度・課  
題[岩波書店]<執筆> 静・開架  
【377.1/H41】

### ◇船橋恵子(名誉教授)

・船橋恵子論文選集1[比較社会構想研究  
所]<編著> 静・開架 【367/F88/1】

### ◇本多隆成(名誉教授)

・徳川家康の決断:桶狭間から関ヶ原、大  
坂の陣まで10の選択[中央公論新社]<著>  
静・開架 【081/C64/S2723】

### ◇増田俊明(防災総合センター)

・はじめての応力[朝倉書店]<著> 静・開  
架 【501.322/MA66】

### ◇松尾由希子(教職センター)

・家と子どもの社会史:日本における後継  
者育成の研究[吉川弘文館]<執筆> 静・開  
架 【362.1/SU96】

### ◇弓野憲一(名誉教授)

・対話で進化するテニス:60歳からの挑戦  
[弓野教育研究所]<著> 静・開架  
【783.5/Y97】

・人工知能時代の学びと創りの心理学  
[ITSC静岡学術出版事業部]<著> 静・開架  
【375.41/Y97】

### ◇吉田寛(情報学領域)

・ともに生きる地域コミュニティ:超ス  
マート社会を目指して[東京電機大学出版  
局]<著> 浜・開架 【504/TO62】



## 〈図書館の動き〉

### ■ 令和3年度第5回附属図書館委員会 (メール審議)

<令和4年3月2日(水)～3月8日(火)>

#### ○審議事項

1. 令和3年度第3、4回議事要旨について
2. 令和4年度事業計画について

#### ○報告事項

1. 令和3年度事業報告について
2. 組織評価に基づく改善状況報告書
3. 自己点検・評価の結果に基づく改善報告書
4. 令和3年度図書館利用セミナー等の年間実施報告について
5. 令和3年度図書館ギャラリー活動について
6. 新型コロナウイルス感染症への図書館の対応について
7. その他
  - ・学長戦略運営経費による電子ブックの充実について
  - ・目的積立金による入退館管理装置一式および学習環境整備について
  - ・リサイクル募金の開始について

### ■ 令和4年度第1回附属図書館委員会 (メール審議)

<令和4年4月13日(水)～4月19日(火)>

#### ○審議事項

1. 令和3年度第5回議事要旨について
2. 附属図書館関連委員会委員等の選出について

#### ○報告事項

1. 令和4年度事業計画について
2. 学術リポジトリの登録状況について
3. 新型コロナウイルス感染症に関する対応について
4. 図書館通信、教員利用マニュアル、Newsletterの発行について

### ■ 令和4年度第2回附属図書館委員会 (メール審議)

<令和4年7月1日(金)～7月7日(木)>

#### ○審議事項

1. 令和4年度第1回議事要旨(案)について
2. 令和3年度附属図書館経費決算(案)について
3. 令和4年度附属図書館経費予算(案)について
4. 令和4年度学生用図書購入費の配分について
5. 図書の不用決定について

#### ○報告事項

1. 附属図書館利用状況について
2. 学外から利用できる電子資料について
3. その他
  - ・研究室備付け図書の点検について

- ・図書館利用セミナーの在宅授業対応について
- ・2022電子ブックキャンペーン

### ■ 令和4年度第3回(臨時)附属図書館委員会 (メール審議)

<令和4年8月8日(月)～8月19日(金)>

#### ○審議事項

1. 令和3年度自己点検・評価結果報告書について

### ■ 令和4年度第4回附属図書館委員会 (メール審議)

<令和4年12月7日(水)～12月13日(火)>

#### ○審議事項

1. 令和4年度第2、3回議事要旨(案)について
2. 令和5年度附属図書館の開館日程について
3. 学生用図書費による令和5年度のデータベース購入について
4. 図書の不用決定について
5. 附属図書館委員会規則の一部改正案の取り下げについて

#### ○報告事項

1. 令和4年度図書館利用セミナーの実施について
2. 図書館業務用電子計算機システムの更新について
3. その他
  - ・本館1階集密書架リニューアル工事について
  - ・図書館関係規則一部改正について

### ■ 令和4年度第5回附属図書館委員会 (メール審議)

<令和5年3月10日(金)～3月16日(木)>

#### ○審議事項

1. 令和4年度第4回議事要旨について
2. 令和5年度事業計画について
3. 自己点検・評価の結果に基づく改善報告書について
4. 閲覧の手続等に関する細則の一部改正について

#### ○報告事項

1. 令和4年度事業報告について
2. 令和4年度図書館利用セミナー等の年間実施報告について
3. 令和4年度図書館ギャラリー活動について
4. その他
  - ・学長戦略運営経費による電子ブックの充実について
  - ・本館集密書架の改修について

